特集　舞鶴のワクワクは教育から

鉛筆、消しゴムなどに並んでタブレット端末が文房具のように学校の授業で使われる。そんな新たな学びの時代がすでに舞鶴市で始まっていることをご存じですか？

市では、国が掲げるGIGAスクール構想に基づき、授業で一人一台タブレットを利用できるよう、令和２年度から機器の導入やネットワーク環境の整備を進め、令和３年度から本格的な利用が始まりました。導入から今年５月で２年余りがたった今、各学校ではタブレットを使う授業が浸透しています。

新しい時代の教育に向けて、市ではこれまでから取り組んでいる、自分で考え、意見交換して、学びを深めるという主体的・対話的で深い学びの実現を目指す「舞ラーニング」の考えを基本に、舞鶴版GIGAスクール構想「舞GIGAスクール推進計画」を策定。令和４年度からは新たに「４WD構想（ワクワクする学びのドアを開けよう）」を掲げて教育の質をより良くするための取り組みを進めています。

令和5年度　舞GIGA（ギガ）スクール推進計画

ワクワクする学びのドアを開けよう 4WD構想

授業づくりリーダー研修
ワクワクする学びに挑戦する教員を育成
・上半期（第4期生）5月～10月、
下半期（第5期生）11月～3月
計4回＋授業参観

舞GIGAスクールモデル校
**チーム学校によるICT活用促進と
ワクワクする学びへの挑戦**
・アドバイザーによる月1回の訪問
（校内研修会、授業研究会）

主体的な学び手の育成を目指して
ワクワクする学びへ

情報モラル教育研修会
**ワクワクする学びへ導くための
情報モラル教育**

舞ワクワクシート
（ICTを活用した授業実践例の紹介）
ワクワクする学びに挑戦する実践事例共有の場
・各校の実践を収集しオンラインで共有

ICT支援員によるサポート・舞GIGAスクールプロジェクト会議による課題整理と答申

子どもだけじゃない
先生も勉強中！

授業改革は先生の意識から

先生が教える授業ではなく、子ども達がワクワクしながら自ら学ぶ授業。子ども達がタブレットを使いながら自由に表現したり、考えを共有したりできる今、そんな授業を実現するには、先生のスキルアップ、意識改革が何よりも大切です。市の進める「舞GIGAスクール推進計画～4WD構想～」では上図の4つの取り組みを柱に、先生のスキルアップや意識改革を進めています。

自治体の教育プロデュースを行う㈱わけわけの野中健次さんにアドバイスをいただきながら実施したモデル校の取り組みでは、学校単位でICTを活用した授業づくりに取り組んでいます。また、その取り組みを校内にとどめず、外部へ発信することで、子ども達のタブレットの活用率や先生たちの活用能力も上がってきました。

授業づくりリーダー研修では各校から先生2人（上半期1人、下半期1人）に参加してもらい、教育委員会のコンサルタントや研修などを行う㈱Doitの土井敏裕さんを講師に、率先して授業を変えていける人材を育成。これまで約70人が参加し、昨年度実施した研修生による公開授業では、子ども達が生き生きと主体的に取り組んでいて、参観した先生たちは「自分もこうした授業がしたい」と授業に対する考え方に変化が起き始めています。

子どもが主体的に学べる環境を目指して

これまでの研修により、各校、各先生で参考となる取り組みが生まれ始めたことから、今年度から新たに、オンラインで実践事例の共有をスタート。学校、学年、教科の枠組みを越えて、自分の授業に取り入れることのできる場を構築中です。

「ICTをいかに教育に使うか」ではなく「授業改善のためにいかにICTを使うか」。その基本に立ち返り、今後もさまざまな取り組みを通して、子ども達が主体的に学べる環境づくりを進めていきます。